

さわどい 埼玉

สมาคมมิตรภาพ ไทย. ชาอิตามะ

2003年5月
8号

発行
埼玉・タイ王国友好協会事務局
〒350-1192 川越市田町32-12
武州ガス隣内 ☎049-247-5428

埼玉・タイ王国友好協会会報

▶ミャンマー国境のドイ・アンカンでは、サブサク氏とマイトリー博士の案内でロイヤルプロジェクト財団の農園を見学。両氏は入間市で茶業の研修を受けています(5号で紹介)。



◀タイ・ガールガイド連盟の皆さんが、鮮やかな籠花を携えてチェンマイのホテルを訪ねていただきました。

第三回タイ友好親善訪問 タイガールガイド連盟訪問 狭山茶の成長振りを視察



三月、埼玉県の国際交流事業でラオス訪問の際、土屋知事と原会長、前島幹事がタイの日本大使館を訪問しました。



当友好協会では学校建設資金の積み立てを始めダルニー奨学金、タイガールガイドの地域開発事業協力など、タイの子どもたちへの支援に力を入れております。会員の皆様には、これらの事業が有効に推移しますよう、今後ともご指導とご協力をよろしくお願い申し上げます。

ここ四年間程、三月末にはチュラロンコン大学の学生達が来日し、埼玉大学との学術交流や県の協力により各施設の見学等を行っております。埼玉大と共に開催する歓迎会には、私も会長として出席するのを大変楽しみにしております。この学生達が将来タイの政治や経済の担い手になるであろうと思うと、期待する気持が高まり、学生たちとの握手にもつい力が入ります。そして彼等が社会で活躍する時、こうした来日経験が日タイの友好関係に必ず役立つであろうと確信いたしております。



会長
原 宏

子どもたちへの支援

第三回タイ親善訪問

昨年十二月三日から七日まで第三回タイ親善訪問が行われ、十八名が参加しました。バンコク経由でチェンマイに入った一行は翌日、バスで三時間余りのミャンマー国境のドイ・アンカンに入り、ロイヤルプロジェクト財団の農園を視察、山岳民族の学校や暮らしにも触れました。またバンコクでのタイ・ガールガイド連盟の視察では、会長をはじめとするスタッフの皆さんの心温まる歓迎を受け、感激の中で友好を深めました。

親善旅行に参加して

団長 笠井和子

一行十八名でこの旅行目的のタイ王国ロイヤルプロジェクト財団が運営するドイ・アンカンの農園を訪問しました。ここは以前世界的に有名な麻薬の取引、栽培の三角地帯でした。現在王様が率先してこの北の人達の農業改革と生活保障をして、果物や野菜等の栽培に力を入れています。村の人達が段々畑で一生懸命働いている姿を見ることができました。

村の学校では子どもたちは元気に勉強したり、けんかをしていたりして、又私達の側に人なつこく集まってきました。

山道に咲いていたタイの桜と日本のさくらに対面できたのは印象的でした。

又、バンコクでタイガールガイド連盟を訪問した際には、スムタラク会長と他の理事、又当協会が協力している地域開発事

業（保育士養成）の卒業生達が出席して感謝の挨拶があり、すでに保育士の仕事をしている人もいました。他の人にも実践の場がある事を願っています。



▲タイ・ガールガイド連盟会長から記念品を受け取る笠井団長

ドイ・アンカン訪問中、同行しているいろいろご助言してくださいましたマイトリー博士と急に団長を仰せつかった私を支えて下さった原敏成氏と吉野寛治氏に感謝申し上げます。

この感動を体験して欲しい
原 敏成

気候、風土、食べ物、人達、次から次に初めての体験が続き、勉強になり、思い出に残る訪問でした。また参加された笠井団長はじめ皆さんの素晴らしい個性も私の印象を良いものにしていきます。感謝を申し上げます。そして、今回お会いしたタイの皆さんの人柄、生き方に感銘を受け、勇気を与えていただきました。探検隊の気分を味わいながら向かったドイ・アンカンまで、同行いた

いたチェンマイ大学のマイトリー先生、ロイヤルプロジェクトをご案内いただいたサブサック先生とは日本に来られたときに、埼玉県立がんセンターにおられた藤木先生のご紹介でお会いして以来の再会であり、感激をしました。私財をなげうってタイガールガイド連盟を創立された創立者のカノクさんはじめ連盟の会長、副会長さんや、当協会の援助で勉強された皆さんの大歓迎を受け、感動いたしました。これからも一人でも多くの人がこうした体験をできることを願っています。

参加者の感想

市民と一緒に祝福

藤村博子

私たちがバンコクに到着した12月5日は偶然にも国王の誕生日にあたり、市内はとても賑やかでした。夕方には街中にイルミネーションが灯され、市内のあちこちで国王の誕生日を祝っていました。私たちがホテル前に集まり、市民に混ざりローソクを手にお祝いの合唱をしました。とてもきれいで印象に残る素敵な夜になりました。ツアーの終盤、バンコク市内の寺院を見学しました。中でもエメラルド寺院の美しさは想像を超えていました。金や色とりどりのタイルを使い、華やかではあるけれど嫌味のない何か親しみやすい建造物がすっかり気に入ってしまいました。もう一度ゆっくり訪れてみたい国です。

子供たちの笑顔が印象的

今回のツアーで、特に印象に残ったドイ・アンカンは、宿泊のリゾートも素敵でしたが、国境の村に住む山岳部族の子供たちの本心に可愛らしい笑顔に出会えた事でした。お茶農園の山道で出会った若夫婦もとても幸せそうに見えました。また、カンチャナブリのクワイ川鉄道戦争博物館はいつ訪れても心が痛みます。

須賀 和子
長尾美津子

世界のそこそこで紛争（戦争）が行われていますが、平和な世界が実現することを願います。楽しい五日間の旅でした



▲茶畑の中で



▲国王の肖像が掲げられたホテル前に立つ藤村さん



▲サブサック、マイトリー博士両氏に持参した狭山茶を入れる笠井団長。後方が原会長代理の原敏成氏。

ダルニー元奨学生が来日

日本民際交流センター15周年記念

当友好協会では、毎年十人のダルニー奨学生（一人年間一万円で三年間）を支援しています。その窓口となっている日本民際交流センターが十五周年を迎え、昨年十一月、早稲田奉仕園で記念の集いがありました。

その時行われた講演会で、二人のダルニー元奨学生が、タイの教育現状や中学卒業後の人生行路について語りました。その一人、パチャリンさんは十四年前、先生の推薦でこの奨学金を



▲ドナーとしての喜びを語る島田絹子さん

受け、高校からはドナーの島田絹子さんが引き続き高校進学を支援し、大学は医学奨学金などをを受けて卒業、現在はノーンカーイ県の病院で常勤医師とし

て勤務しています。彼女は、ダルニー奨学金がなかったら、今頃は日雇いの仕事か農作業をしていただろうと話していました。ドナーの島田さんは今回の来日で晴れて医者となったパチャリンさんと再会し感激もひとしおの様子でした。



▲感激の対面が実現

もう一人のパッサコーン・トーウィンヤーさんは、中学に進学するのは裕福な家庭のこともだけという運命に従いたくないと、小学校の先生に相談し、ダルニー奨学生に推薦してもらい中学を卒業し現在水族館で働いています。何の見返りも期待せず支援してくれたドナーへの恩返しは一所懸命勉強することと頑張ってきたそうで、片時も忘れなかつたというドナーの玉井信子さんとこの会場で初対面を果たしました。

チュラ大・

埼玉大交流行事

三国コカ・コーラ吉見

工場川越などを見学

三月十七日、恒例となったチュロンコン大学学生の歓迎会が埼玉大構内のきやら亭で開かれました。埼玉大からは兵藤学長を始め二三名、当友好協会からは会長を始め十一名が出席、原会長は挨拶の後、学生一人一人に記念品を渡し激励しました。

また二十日には当友好協会事務局のメンバーが同行し、吉見町にある三国コカ・コーラ、武州ガス吉見製造所などを見学、昼食は川越市内の「ランマイ」で久しぶりのタイ料理を食べ喜んでおりました。午後には川越市内の喜多院や五百羅漢、蔵づくりなどを見学しました。



▲チュラ大の学生たちと原会長



▲三国コカコーラボトリング社の見学風景

日本人は自国に

無関心すぎる

埼玉大・教育学部三年新開瑞恵 彼らは日本の電化製品に非常に興味を持ち、一日が終わると疲れた様子も見せず新宿や池袋に繰り出す元気に圧倒された。その狙いはデジカメやMDウォークマンなどで「タイより1/2万安い」と言っていた。

日本の歴史的建造物を見学した時にいろいろ質問されたが、実際には答えられないことが多くとても恥ずかしかった。私がタイに行った時は、みんながタイの歴史や風習について色々教えてくれた。彼らは自分がタイ人であることにとても誇りを感じている。日本人は自分の国に無関心すぎると思う。日本人であるからゆえに普段気づかない日本の良さ、日本人だからこそ守っていかなくてはならない文化の大切さを、今回タイの学生が教えてくれたと思う。

タイの文化・情報が

もつと欲しい

埼玉大・経済学部四年小針奈津美

二〇〇二年十月から二〇〇三年三月まで、タイのチュロンコン大学に交換留学をしました。タイの大学は、日本の高校のような雰囲気でした。日本の大学では、同じ学科に所属しているけれど名前は知らない、といった人がたくさんいると思いますが、タイのある学生は「一年生から四年生まで、同じ学部の人なら全員知っている」と言っていました。初めて教室へ行った日、最初に仲良くなった学生が次から次へとクラス中に私のことを紹介してくれたのをよく覚えています。また、日本に興味をもっている人がたくさんいて、大学の勉強とは別に、日本語学校に通っている人もいました。特に女の子たちは、日本の芸能人について詳しくて驚きました。日本の文化・情報がタイに入ってきているように、タイの文化・情報ももつと日本に入ってきてほしいと思います。



▲寒いと言いながらいてもアイスをはうばる学生たち

タイにアクセス

会員 VOICE

大きな成果を 上げています

さいたま市 鈴木洋子さん



埼玉大学はタイのチュラロンコーン大学と交流協定を締結しており、様々な学術交流をしています。私はその中で留学生交流委員を務めています。同大学との学生交流はすでに4回を数え、夏に本学生がタイを訪ね、春にはチュラ大生が来日、この3月にも15名の学生と教官2人が

さいたま市に滞在しました。

この交流行事に埼玉タイ王国友好協会が多大な協力を下さり、歓迎会では原会長が学生一人一人に記念品を手渡しして下さいました。土屋県知事の表敬訪問も協会のお力添えで毎年実現し、その上、川越見学や工場見学等盛りだくさんの内容を学生に経験してもらい大変喜ばれています。

このプロジェクトに参加した学生の中に、毎年正規の交換留学を志す学生が双方におり、その意味でも大きな成果を上げています。こうした若者は生涯日タイ友好の架け橋になるだろうと思います。



水かけまつりに大勢が集う

4月13日都内の目黒にあるタイ大使館庭でタイの新年を祝う水かけまつり（ソングラーン）が行われました。出席者の皆さんは、タイ舞踊や音楽を楽しんだり、本格タイ料理店出店のタイ料理に舌鼓を打ちました。



大使夫妻に迎えられた参加者

ソングラーンはもともとは世話になった人や僧侶などの手に、鉢からすくった水（清浄のシンボル）を尊敬の念を込めてそっとかけつつ、新年の



幸せを祈るといってものですが、近年はバケツや水鉄砲を使った水かけ合戦に様変わりしていて、特にチェンマイのソングラーンはその激しさで有名です。



第4回タイ・フード・フェスティバル

来場の会員に 記念品プレゼント

入場無料

～10日(土)11時～12時に時計塔の下で～

人気が高まり、今年から3日間に拡大。なんと100店舗のタイレストランが出店します。他にもタイ雑貨や食材の販売、タイ舞踊、ポップス・ミュージック、ムエタイ、手芸品の実演、タイ料理教室、タイマッサージ、タイの景品がもらえるゲームなどなど得々内容がいっぱいです。ぜひ一度足を運んでみてください。

詳しくはwww.thaiembassy.jp

9日(金)～11日(日)

10:00から20:00

代々木公園イベント広場

タイアラカルト

VOL.8

タイ料理の楽しみ方

タイの人も日本人に劣らず麺が好きです。ビーフンのような細麺をセンミー、中太麺はセンレック、きしめんのような平たい太麺をセンヤイと呼び、原料は米粉です。パミーと呼ぶ麺は小麦粉と卵を使ったもので日本のラーメンのようなものです。

日本と決定的に違うのはタイの麺料理は薄味になっていて仕上げの味付けは食べる本人がする点で、必ず卓上に調味料が置かれています。その基本はナンプラー、粉唐辛子、唐辛子を漬けた酢、砂糖の4種。麺に砂糖を入れるのは日本人には抵抗があるようですが粉末唐辛子との相乗効果でコクが生まれ、おいしくなります。そのポイントは粉末唐辛子と砂糖をほぼ同量入れることで、目安はそれぞれ小さじ1～2杯です。ぜひお試しください。



タイ事務局連絡先

「UIエレクトロニクスタイランド」担当 佐藤、小河原
TEL 662-7112-7290

編集後記

●三月にバンコクにいきました。街中を走行している車が新しいこと。タイ国の経済状態を表しているようでした。(Y)

●やっとデジカメとそれに見合ったプリンターを揃えました。家に帰ってすぐに写真がでさる。、夢のようです。(O)

●現在の会員数は二六一。「さわっでい埼玉」が、会員拡大の足がかりとなるよう今年もがんばります。(H)

会員募集中

埼玉・タイ王国友好協会では、多くの県民の皆様によりタイ王国を理解していただき、友好活動を積極的に進めていくために会員を募集しています。

年会費 法人会員 2万円
個人会員 2千円

申し込み 埼玉・タイ王国友好協会事務局
問い合わせ TEL:0492-47-5428 FAX:0492-46-2118

(武州ガス(株)内)